

視点

こども園や幼稚園、保育園を卒園した子どもたちが小学校生活に順応していけるように、こども園などと小学校の間で連携会議が持たれるようになってきました。

国は「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を示し、5歳児終了時の具体的な姿として、こども園などの保育者が教育・保育を行う際に考慮するものとしています。そして、その方向性を小学校の教員と共有し、小学校教育との接続の強化を図ろうとしています。私の園でも、そこに示された姿を考慮した上で、子どもたちが遊びこむことを通していろいろな経験をし、さまざまな興味、関心を持ち、友達との関係の中で学びを得られるよう保育を行っています。

ました。私たちは、遊びを通した子どもたちの学びなどについて説明しました。一方、小学校の先生

からは、子どもに対する考え方はこども園などと基本的に同じであるとしながらも、学



前橋市柏倉町

深町 穰

県保育協議会会長、赤城育心こども園園長

小学校への順応後押し

意見を交わす中で、小学校の先生から「こども園では『規律』をどのように考えているか」という質問がありました。想定していたものでしたが、学校の先生方が枠組みの中で生活する子どもたちをまもめていくと苦労を感じました。

私の園の保育者は、規律を守りたくなるような言葉を掛けたり、守ることで喜んでくれる人や助かる人がいるということを伝えたりして、子どもが主体的に規律を守るように導くと説明しました。遊びを通して、ルールを守った順番を待ったりすることを学ぶこともあります。

子どもが納得した上で、主体的にルールを守ったり、話を聞いたりするようになる環境をつくることは、こども園などでも小学校でも容易ではないはず。ただ、とにかく座っていないとか、黙って話を聞きなさいと、大人が一方的に押し付けるのは、教育・保育の本質ではないと思っています。

じっくり遊びに集中できる子どもは、学校の授業にも集中できます。これからも、こども園などと小学校が相互の理解を深めながら知恵を出し合い、子どもたちが安心して小学校に進める環境を構築していきたいと考えています。

【略歴】2003年から

園長。19年、県保育協議会会長に就任。いち早くこども園運営に乗り出したほか、地域子育て支援センターの運営に関わる。上智大法学部卒。

みんなのひろば

ところが、教育・保育の関係者の間でも、「遊び」と小学校での「教育」という言葉がなかなか結び付かない現実があります。それは、こども園などで子どもたちが好きな遊びを好きなように展開する姿が、常に無秩序に動き回っていて、黙って人の話を聞かないということとはかけ離れて見えるからではないかと、私は考えています。

先日、小学校の先生と私の園の職員で意見交換会を開き

校にはチャイムで区切られた枠組みがあり、その中で、子どもたちが生活しなければならぬという説明がありました。

遊びと教育